

第13回「URUZO！」WG 議事録

日時:2018年10月29日 19:15~21:00 場所:ふれあい歯科ごとう

出席:五島先生、板垣先生、不二(明治)、鈴木(ヤヨイサンフーズ)、三好(アサヒグループ食品)、藤崎(日本介護食品協議会)、的場(ハウス食品)、木田(マルハニチロ)(敬称略)

■第3回タベマチフォーラムの取組テーマ検討

第2回タベマチフォーラムでは介護食を常食材料として利用したレシピを単身・家族世帯別に提案。
来場者からの反応は良く、問い合わせもあり。

① 3/24(日)10時~13時で百人町にある特養「けやき園」で「タベマチまつり」を企画。

在所している高齢者や障害者はもちろん、周辺のアパート住人も集めたい。

新食研と住人との接点が無く、初めての試み。成功すれば、定期的な開催を検討。

このイベントで、新食研で6つブースを確保。講座も実施予定。

介護食の試食やレシピ集の提供など、実際に触れてもらう機会を検討(みんなが「食べられる」ということを広めたい)。

水道や電源など簡単な調理スペースあり。保健所には今後確認。

12月末を目途に出欠を回答。

② 薬局の栄養士が集まって勉強会を実施。参加者は7名。

現場では、本来の栄養士の業務ではなく、イベント事務的な業務(コスメ、レシピ、品出し)などに従事。

→介護食のスペシャリストとして教育できれば面白い。

③ 簡単な咀嚼力テストとUDF区分の相関チャートの構築(五島先生をお訪ねすることとなった協議会本来の動機)。

→どんな人にUDFが必要か使用機会のきっかけを創出。

何をどのレベルの人に食べさせたらいいか、わからない人が多い。

せんべいテストのような、咀嚼回数によるレベル化を図る(エビデンス化を図る(デイサービスの利用者を対象に)。先生方に学会発表いただくなど)。

→この実験のデザイン(計画)を何か考えてみるか?(URUZO!のテーマ)

*せんべいテスト=3回食べて咀嚼回数の平均でUDF区分を判別するなど。

妥当性を出すのには、時間を要する。

④ 障害者への対応について。

新食研でも障害者NPOとの接点あり、話を聞くことは可能。

支援学校などから介護食の問い合わせもあるが、普及拡大には繋がっていない。

障害者の方の在宅における食事の情報が少なすぎるため、実態を把握できていない。→情報収集?

まずは、タベマチまつりで介護食を試してもらい、その反応をみて今後の進め方を検討。

「介護食チャレンジ」(高齢者、障がい者、etc・・・)

●今後の検討事項

③の咀嚼力テストとUDF区分の相関性について、議論を進める。

(せんべいテストの回数による食べられる食事)指針を作ること、消費者が介護食を買いやすくすることを目指す。

まずは、喫食しやすいおやつ類(舌でつぶせる・かまなくてよい)から始める。

<この2つがテーマに含まれるか>

- ・現在の食べる力を維持するための食事を案内
- ・食べられなくなった方に合った食事を案内

■次回予定

第14回URUZO！ 12月11日(火) 20時15分

議事録作成者 マルハニチロ(株) 木田 恭太

議事録確認者 URUZO！